JAPAN HONG KONG

飛龍 FLYING DRAGON

日本香港協会ニュース No. 69

日本食品の応援団

5月23日夕方、香港日本人倶楽部で「愛・日本料理」のイベントが開催されました。日本料理店協会と地元飲食業連合総会が主催し、原発事故の風評被害に苦しむ食品業界を救うため日本食品の100%安心を訴えました。多数のテレビや新聞などのマスコミが取材するなか、香港政府のNO. 1であるドナルド・ツァン(曾蔭権)行政長官を筆頭に政府関係者、著名人がイベントに足を運んでくれました。100%日本から持ち込んだ材料を味わってもらう企画です。香港の方々が企画し、香港地元の方々が参加する試み。勿論、総領事館、ジェトロ、香港日本人商工会議所なども応援をし、日本食品の輸入業者やレストラン関係者が参加しました。香港の地元民に安心を与えるためには、何と言っても、行政長官が会場に来られること。そして、行政長官が実際に日本食を手に取られることでした。

危機に陥る業界を憂い立ち上がった人物がいます。日本料理店協会の会長も兼ねる食品業界の重鎮フランキー・ウー(呉保鋭)氏です。4月に入り、危機感が急速に増す業界を、同氏は、飲食業界代表のトミー・チェン立法議員を動かし、行政長官や総領事の参加を実現しました。日本料理店の中には、日本品を使わないから関係ないと自らを否定するようなレストランも出るやら最初は違う足並みでした。人々にわかり易い「100%の安心+50%の特価」のキャッチフレーズ下で業界をまとめました。毎週水曜日4回のみのキャンペーン。加盟店は、全品なり一部のメニューを半額にすることで合意。ちなみに、水曜日としたのは、ナイト競馬が開催され飲食店の売り上げが減少する日のためでした。

23日は、待ちに待った行政長官が午後7時に到着。早速、景気付けの日本酒鏡開き、そしてすぐさま会場の寿司コーナーへ直行。事前の情報では、長官は、人前で食べる姿を見せられないと聞いていました。しかし、何と寿司を口元に運ばれるではありませんか。インタビューに対して「おいしい」、「安全性を確認した上で日本食品を輸入することは自分の名誉」との意味の発言をされました。香港の業界の熱意が通じた瞬間でした。

香港日本人商工会議所の農水産部会では、定例会に市場の状況を追跡して会員と共有しています。7月は、「日本食品の東日本震災後の落ち込みとその後の回復状況」と銘打ち、卸しの代表は、上述味珍味のウー会長、小売の代表として、ユニー香港の中村社長が壇上に上がりパネル・ディスカッションを開催しました。小売面では、4月—6月までの前年対比による果物、野菜の販売状況が解説されました。

生鮮食品は他国産品に切り替えることで売上をカバー出来たが、野菜については切り替えが難しいようです。香港の消費者が他国産品に慣れ、日本産品離れが加速される懸念が表明され、卸しの情報では、ほぼ震災前の売上にレストランは戻ったが、高級店の一部は経営が厳しいとの指摘がありました。地道な日本産品の試食会実施が不可欠であることが共感されました。日本産品の安全性を、日本政府なり地方自治体なりが放射能検査の証明書を発行する口だけでない安全性アピールの実行も強く求められました。農水産品は、日本だけの専売品ではないことが改めて痛感されました。

9月の部会では、香港でタレントと水産物の販売会社社長をこなしている杉内馨"Kei"氏による「震災6ヶ月後の香港における日本産水産物への影響」と題した講演が開かれました。北海道出身の同氏は、香港で初めて北海道の海産物をインターネットを通して販売されています。最初は苦労されたようですが、香港のテレビ局の娯楽料理番組にコメンテーターで出演されたりして知名度が向上し、売上も飛躍的に増加しました。しかし3. 11後、売上が大きくダウンしたものの、9月時点では約8割まで回復した。今後の課題として、同氏は、香港市民への日本食に対する理解を引き続き求めてゆく努力を語られていました。

日本の農水産物輸出先第一位の香港で、日本産品を応援される人々へエールを送り続ける所存です。

香港日本人商工会議所事務局長　柳生　政一

目　次

2011年12月 発行

日本食品の応援団 …… 1
女性の目から見た香港の魅力 …… 2
Simon Murray氏のこと …… 4
あの時この曲in香港 …… 5
ミラマホテル物語 …… 5
「第12回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告 …… 6
連合会・各協会便り
　連合会：全国連合会からのお知らせ …… 7
　東　京：アジア・ユース・オーケストラ、Brothel考、文化講演会 …… 8
　関　西：法人会員交流会、第9期CMMS開講式、香港中秋節パーティー …… 9
　中　京：香港と私の出会い …… 10
　九　州：辛亥革命100周年記念フォーラム …… 11
　山　形：香港生活14年を振り返って …… 12
　北海道：香港フードエキスポ2011、世界最大規模の食品見本市、香港ビジネスの手ごたえ …… 13
　宮　城：2011通常総会及び記念セミナーを開催 …… 13
　沖　縄：平成23年度通常総会開催 …… 14
　広　島：香港企業招聘し、環境関連、食品関連の商談会を開催 …… 15
ミラマホテルからのお知らせ …… 16

『香港女子会』～女性の目から見た香港の魅力

■ ゲスト(敬称略)： 相澤 直子 × 佐々木 由美 × 長嶋 久美 × 前田 展野
■ 司会・撮影： 伊東 正裕（日本香港協会全国連合会事務局）
■ 編集・構成： 平野 純一（日本香港協会広報委員）

伊東　本日は1970年代に香港に住み、日本人学校に通われた同級生4人の女性にお集まりいただき、香港の変わらぬ魅力や今昔の変化について、語っていただきたいと思います。

佐々木　私は73年の小学5年生から約3年半住んでいました。今振り返ってみて驚きなのは、友達の家に遊びに行く時に、一人でタクシーに乗っていたことです。日本では小学生の女の子がタクシーに乗るなんてちょっと考えられないですよね。

長嶋　私も74年から約2年半住んでいましたが、日本人学校の先生もタクシーに乗ってでも、あちこち遊びに行きなさいと勧めてくれたのを憶えています。私はボーエンロードに住んでいて、周りにあまり友達がいなかったので、やはりタクシーに乗って遊びに行っていました。

相澤　まだ地下鉄がなかった時代ですからね。私は73年の5年生から中学2年の終わりまで4年ほど香港で過ごしました。今のように学習塾はなかったし、放課後は友達の家に行って遊ぶことばかり考えていました。カン蹴りとかフットベースボールとか…。香港は場所が狭いから、遊ぶのにもいろいろと工夫をしていました。マンションの駐車場で遊ぶこともありましたが、ボールが車に当たってものともせずに遊んでいたので、時々管理人に怒られたりもしましたね。

長嶋　当時の日本の新聞に「どこでもタクシーで遊びに行く子供たち」という感じでちょっと皮肉交じりの記事を書かれたことを憶えています。でも、それしか移動手段がなかったから仕方がなかったんですよね。初乗りは1ドル50セントで安かったですし。

前田　私は72年の小学4年から約2年香港にいました。父が全日空に勤めていたので、カイタック空港にアクセスの良い九龍側に住んでいましたが、学校は香港島側でしたし、日本人は香港島の方に多く住んでいたと思います。まだ海底トンネルがなく、スクールバスが九龍側までは来なかったので、通学は先ず自宅の近くから公共の2階建てバスに25セントで乗り、スターフェリーに10セントで乗り継ぎ、そして香港島側からスクールバスに乗り換えて学校まで通っていました。やはり一人でバスやタクシーに乗って、どこへでも遊びに行っていましたね。

伊東　当時は他にはどのようなことをされていたのですしょうか。

佐々木　映画をよく見に行きました。小さかったですし、特に「エクソシスト」は怖かったのを憶えています。

相澤　「日本沈没」も小学生としてはちょっと怖かったですね。

佐々木　日本映画の上映があると嬉しかったですね。「カッコーの巣の上で」を映画館で見たのを鮮明に憶えていますが、今にして思えば小学生が見るには、内容的に難しかったと思います。

伊東　日本語字幕もなくて随分と難解な映画を見ておられたんですね。

相澤さん、前田さん、長嶋さん、佐々木さん（左から）

相澤　日本人クラブでは、日本人向けに映画の上映会が定期的に開催されていました。寅さんシリーズとか、紅白歌合戦の録画上映もありました。

佐々木　当時はブルース・リーも流行っていましたよね。

伊東　男子にとってはブルース・リーがヒーローでした。香港映画の全盛時代です。

前田　よく通りかかる映画館に「死亡遊戯」の大きな看板がかかっていたのを憶えています。

相澤　「ポセイドン・アドベンチャー」や「タワーリング・インフェルノ」などのパニックものが流行っていた時代でしたね。

長嶋　小学６年生の時は、担任の先生が週末になると様々なイベントを企画してくれました。長州島やラマ島にピクニックに行ったりとか。人数も多くなかったですし、とてもアットホームなクラスで、先生にはプライベートでもお世話になりました。

前田　YMCAに泊まる宿泊学習もありました。当時の新界はかなり未開の地という印象でした。

長嶋　私が憶えている夏のイベントとしては、ヒルトンホテル所有の大きなジャンク船に乗って行く離島へのランチピクニックです。今風に言うとクルージングということになりましょうか、海に囲まれた香港ならではの行事だったと思います。年に一回開催されるハンセン銀行オーナーのホームパーティーも印象的でした。香港としては珍しい庭にプールがある大きな一軒家でした。

伊東　当時は日本人コミュニティーが小さかったので、今に比べると現地の人との交流がずっと盛んだったということでしょうか。

長嶋　両親も夫婦揃ってパーティーに出かける機会が多く、母はロングドレスやチャイナドレスをオーダーメイドで作っていました。仕立屋が家まで採寸に来てくれるのですが、余った生地で私の服も仕立てて貰ったこともあって、子供心に普段は着ないようなサマードレスでパーティーに行くことが嬉しかったのを憶えています。日本ではなかなかできない体験でした。

伊東　かつての香港はやはりイギリスの植民地で、アジアでありながらイギリスの香りがするところが良かったんでしょうね。

長嶋　夏にクラシックコンサート週間があって、イギリス人はロングドレスで正装して来ていました。開幕時に英国国歌を歌ったのを鮮明に憶えています。

佐々木　日本人学校でも何か行事がある際には、君が代とともに英国国歌が流れていました。

長嶋　返還後の香港は、そのような華やかな雰囲気や昔の大らかさが褪せてきているように感じます。数年前に香港に住む友人の家に遊びに行った時に聞いた話では、子供たちは学校から帰ってきたら塾に通わなければならず、親もその送り迎えに忙しいそうです。買い物は日系のスーパーに行けば全部済んでしまうので、昔のように市場に行って、現地語で「ちょっとまけろ」なんて交渉することもなく、日常生活が日本人コミュニティー内で済んでしまうのは、便利な反面物足りないような気がします。

伊東　日本と同じ生活ができるようになったことで、現地に溶け込む必要がなくなったということでしょうか。残念なことですね。その後に行かれた香港の印象を聞かせて下さい。

佐々木　私は80年代に日本航空のキャビンアテンダントをしていましたので、フライトで何度も香港には行きました。香港便の場合、現地には１泊しかしないのですが、自由時間には中国デパートで買い物したり、昔住んでいた懐かしい場所に行ったりと一人でブラブラするのが好きでした。95年には主人・子供と旅行しましたが、当時はまだカイタック空港で、香港に着陸した瞬間に独特の臭いを感じたことを思い出します。不思議なもので、あの臭いを嗅ぐだけで満たされた気分になるんですよね。

長嶋　私も帰国してから香港へは何度も行っています。香港での買い物はというと、ブランド品が中心ではなくて、フィリピンの貝のお皿とか、ポルトガルのかわいい置物とか、高価ではないのですが、日本にはないような珍しいものを買えるところが好きでした。返還後は国際都市香港としての「らしさ」がなくなってきているように感じます。

佐々木　私が飛んでいた80年代を境に変わっていったという感じでしょうか。円高が進み、日本人OLがこぞって香港に行ってブランドものを買い漁っていましたので、香港行きのフライトはいつも満席でした。

前田　うちは、母が家具をオーダーメイドで作ってもらっていたのですが、当時の木製の衣装ケースは今でも使っています。「喜」という字が２つ並んだ所謂「ダブル・ハピネス」マークが入ったものです。

相澤　紫檀とか黒檀のものですね。金具のところは真鍮だったでしょうか。

長嶋　私も実家にダブル・ハピネスの衣装ケースがありますが、絶対に虫がつかないって母が言っていました。そういう香港らしいものが、最近ではあまり見られなくなったのは残念ですね。

相澤　私は実は中学2年で帰国してから1回も香港に行っていないんです。2003年に主人が北京に赴任したのですが、やはり昔の方が良かったのかなと思うことがありました。北京へは家族で一緒に行くかどうか迷って、当時中学3年の上の息子を先に北京にいた夫のところに行かせて、日本人学校やインターナショナルスクールを見学させました。北京における生活は狭い日本人コミュニティーの中での活動が中心で、それを逆に息苦しく感じたのか、息子は日本の高校に行くことを決心したようです。私たちは香港の子供時代に自由にどこへでも一人で行くような体験ができたわけですが、今はセキュリティの問題なのでしょうか、せっかくの海外なのに現地の空気を満喫できないのは残念なことです。

前田　私は現在沖縄の物産をプロモートする仕事に就いているのですが、その関係で03年と04年に香港を訪れました。香港のシティースーパーで、沖縄物産のプロモーションをしたのですが、香港の方々が日本食品に高い関心を持っていることを知って驚きました。私にとっては約30年ぶりの香港でしたが、毎日通っていたネイザンロードでは、たくさんの看板が道路までせり出していて2階建てバスがぎりぎりで通っていく姿は昔のままでした。スターフェリーも、船体のみならず九龍側のゲートや船着き場もそのままで、とても懐かしく感じました。

長嶋　ただ、埋め立てが進んだ結果、セントラルのスターフェリーの乗り場はすごく不便になってしまいましたし、新しい高層ビルが林立して、ピークからの夜景もビルの裏を見ているようで、昔見た100万ドルの夜景とは一変してしまったように感じます。今の夜景は、どちらかというと九龍側のプロムナードから香港島を見る方がメインになっていますよね。食べ物も昔の方が良かったように思います。今はヌーベルシノワと銘打ち、洗練された高級広東料理がもてはやされていますが、私は大衆的でリーズナブルな価格の広東料理が好きなんです。

佐々木　最近は、飲茶の点心類も注文用紙でオーダーするようですが、飲茶はワゴンがないとつまらないですよね。おばちゃんが運んで来て、それを見て選ぶのが好きでした。

伊東　シティホールなど一部の飲茶は今でもワゴンが残っています。

相澤　それはいいですね。70年代の古き良き時代を知っている私たちとしては、そういう変わらない香港を探しに行くのも楽しいかもしれません。香港は私にとって本当に特別な場所なので、行くならちゃんと行きたいんです。いつか香港で同窓会をやれればいいですよね。（一同頷く）

伊東　本日はお忙しいところお集まりいただき、有難うございました。

一同　今回はこういった企画を組んでいただいたおかげで、こうして30年来の旧友と語り合うことができて良かったと思います。香港が取り持つ縁はとても深く、強いことを再認識しました。こちらこそ、有難うございました。

70年代後半の香港（ネイザンロード）

香港 いま・むかし

Simon Murray氏のこと

日本香港協会会長　戝前 宏

サイモン・マレー氏
（サイモン・マレー＆カンパニージャパン社提供）

サイモン・マレーの名は80年代後半から90年代前半に香港にいた人はご記憶のことと思う。李嘉誠、率いるHutchison Whampoaの代表として香港電力とかHusky Oilなどの買収を手掛けた人物だ。香港では毎日のように、いろいろな会社のパーティーがあるが、彼はこれらにはほとんど顔を見せず、神秘的な存在でもあった。彼の前歴がフランスの外人部隊にいたということで、外人部隊に対する世間の目はむしろ怖れに似たもので、これがマイナスイメージに繋がったものと思われるが、実際の人物像は最後に触れたい。ビジネスの成功もあり、94年Hutchisonを辞めるまで香港大班として君臨していたが、あれから17年が経った。その後、Vodafoneとか香港のみならず世界中の10指に余る会社の役員などをやっていたようだが、70歳を過ぎ半ば引退しているかと思っていたら、突然彼の名がマスコミを賑わすようになった。

4月後半にスイスの巨大資源商社Glencore社がサイモン・マレー氏をNon-executive Chairmanに任命したと発表した。

何故Glencoreが今、注目されるかというとロンドンと香港市場に上場して120億米ドルを調達すると発表されたからだ。原油がメジャーによって支配されているように、穀物も専門のディーラーが支配していたし、その他の国際商品も似たようなものであった。但し石油のメジャー以外は上場しておらず、アラブのファンドとかそれぞれ資金調達先は持っていたのだろうが、各企業の中身は不明であった。一方金融機関によるデリバティブ取引が盛んとなり、これらのディーラーも他の商品分野に参入し強大な商品ディーラーが誕生した。Glencoreは資源投資からトレードまでを一貫して行う専門商社だがオイル、ガス、石炭、金および非鉄金属、穀類、砂糖など商品分野と鉱山開発、製鉄、製油などにも手を広げ、今や世界最大の商品ディーラーとなった。2010年の純益は5千億円強と資源高の中でも突出している。国際商品相場は5月初めの最高値から1～2割下落したが、まだ調整局面と見られ、むしろ上場で資金調達が容易となり次の大型買収にという構想であろう。

5名の社外役員も指名された。BPのメキシコ湾での原油流出事件で退任したBPのCEO、Tony Hawardもその一人と、なんとも話題の多い上場だが、サイモンはさらに絶好の話題を提供してしまった。マスコミの取り上げ方には色々あり、ロイターはAdventurer、Simon Murrayとした。Adventurerは文字通りなら冒険家だが、記事の内容から筆者などは、当初は"山師"と解釈してしまった。（何世紀も前、貿易商人はmerchant adventurerと言われ一般には"山師"の別称でもあった）。

さて、Sunday Telegraphの取材で彼は率直な意見を述べたまではよかったが、女性の雇用問題で"女性は男性同様知性もあるが、男性に比べ一つのことに熱中しようとしない、また、ビジネスに必ずしも野心的でない。女性の場合、子育てとか彼女らになすべき別のこともある。彼女らはいずれ結婚するだろう。そこで妊娠し更に9ヶ月は仕事にならない"とやってしまった。

これに、The GuardianとかDaily Telegraphが噛みついた。信じがたい偏見とか、旧式で中世の人間のようだとか。更にGlencoreの新会長には受け入れ難い。企業統治に問題あり。等々。

サイモンは早速声明をだし、"女性の役割についてのコメントによって生じた無礼に陳謝する。私は役員会とか会社の構成上、男女のequal opportunityを100%支持する。公的にも私的にも女性の支持のないビジネスは競争力で劣る"と白旗を掲げた。だが、一方でサイモンの前に会長に擬されていたBPの会長、ジョン・ブラウン卿について"ロンドンの英領内の貴族より香港では誰が良く知られているかをGlencoreのCEO, Ivan Glasenbergが考えたのだろう。また、彼はもっと荒々しい何かを願ったのかもしれない"とコメントした。それにしても相変わらずサイモンはずけずけ言う。

上場はロンドンでは先ず先ずの成功、香港では商品相場の下げもあって心配されたが順調に上場を果たした。他方、穀類での裁判沙汰とか、欧州投資銀行が企業統治に問題ありとて新規融資凍結など問題を抱えているが、何とか切り抜けるであろう。

最後にサイモン・マレー氏の実像について触れておこう（一部は彼の自伝による）。

彼は1940年に英国で生まれた。ある程度裕福な家庭であったらしいが、どのような事情からか彼は学校生活をdrop out、フランス陸軍の外人部隊に入り、5年間アルジェリアのパラシュート部隊でゲリラと戦った。その後、極東を目指し香港のジャーデインで14年間働いた。更にproject advisorとしてDevenham社を立ち上げ、84年に李嘉誠にその会社を売り、自らはその後Hutchisonのトップを10年務めた。94年にドイツ銀行グループ・アジアの会長とか、mobile phoneの会社、投資会社などを設立、いずれも成功した。ロスチャイルド家とか李嘉誠など巨大投資家に気にいられるなど、彼にはやはり特殊な才能があったのだろう。

さて、筆者は冒頭にadventurerのことを書いたが、実際に彼は冒険家でもあり、2004年64歳で他人の援助なしに２ヶ月をかけ1200キロを踏破し南極点に到達している。（ギネスブックにも世界最高齢と載っている）。その前に、60歳でモロッコ砂漠242キロ完走とか、奥方とヘリコプター操縦とか年齢を感じさせない体力だ。（奥方はヘリでの世界一周をした最初の女性）実業界でも大成功者だが、凡人には及ばない体力と気力を併せ持った御仁だ。英国女王からCommander of the British Empireの爵位を受けている。節制もしたのだろうが実に多才な人物だ。

あの時 この曲 in 香港 テレサ・テン「愛人」（情人的関懐）

日本香港協会会員　入江 央

豚が猪、歯が牙と違いがはっきりしているのは、覚えてしまえばよいのだが、愛人のように意味が曖昧なのは難しい。ぼかされているから、また話が面白くもなる。普通話（北京語）の愛人は、結婚前の恋人、夫が妻を、妻が夫を指す英語の Better Half を意味し、日本語の愛人，不倫の仲は、情人と云う。ところが台湾では、日本の植民地時代の名残か、日本語と同じ意味でこの言葉が使われるからややこしくなる。

私もメンバーだったクラブハウスの踊り場では、等身大以上の中国人小姐一人、額の中から笑顔で我々を迎えてくれる。彼女の名前は鄧麗君（Teresa Teng）。

活動の拠点からして香港人と間違えられているが、台湾生まれ。両親は蒋介石について大陸から渡ってきた、所謂外省人。父親は国府軍の職業軍人だった。

香港で日本人レコード会社の社長との出会いがきっかけで、日本での活動が始まる。当初はパッとしなかったが、演歌路線に変えたところ、２作目「空港」が大ヒット。「つぐない」「愛人」と次々とミリオンセラーが出る。彼女の曲には、不倫、別れ等暗いものが多いが、それをそれほど美人でない彼女が明るく唄うのがよい。現実と少し離れた世界。近松がいう虚実皮膜の間と同じことだ。

 # つくしてーなきぬれてー　そしてあいされてー ♭

「空港」より「愛人」のほうが私は好き。半拍が多い4拍子。意外にノリがよいメロディーで、中環、九龍のショッピングモールによく流れていたことを思い出す。

普通話の翻訳は少し不倫の臭いが減っているが、大陸でも爆発的なブームをよぶ。北京政府は内容が不健全ピンク曲と位置づけ、音楽テープの販売・所持を禁止。本当は、軍部との接触を心配したのではないか。

1987年12月、私は経団連の海南島視察団に参加する機会に恵まれたが、打ち上げのあとのナイト・クラブで、某有名な中国女性歌手が「愛人」、「つぐない」を唄ってていて驚いた。北京から2,500kmはなれた遠い島だから、中央に刃向かっているのか、妥協して歌詞を替えているのか、私のプアーな普通話では残念ながらわからない。

その後彼女は天安門事件（1989年）反対運動に参加し活動を続けるが、1991年タイ・チェンマイで亡くなる。病死説、暗殺説が流れた。

一方海南島で悔しい思いをした私は、一念発起普通話の勉強を始めて二十余年。四声が難しく進歩が全くみられない。

 # わたしは待つみの女でいいの ♭ と彼女は言うが、いつまでも待っていてくれるだろうか。毎年お彼岸が来る度に、香港時代を思い出す。

画・市橋金之助

ミラマホテル物語

日本香港協会会員　塚本 勝弘

旧ミラマホテル外観

私が初めて香港の旧空港に降り立ったのは、手元のパスポート（本革張りの現行品よりは一回り大きい）に1964年5月23日と記録されている。時刻は、判然とはしないが間違いなく夕刻と記憶している。夕闇が迫る頃、市街地へ向かう道路の両脇は、煤ボケた中層の多分、住居に小規模の工場も混在する正に雑居ビル群であった。途中、右手やや小高い斜面に白い清潔感のある建物が見えたが、クイーンエリザベス病院であることは後に知った。程なくして、車は尖沙嘴の繁華街に入りその先端に位置する重慶大厦の前で止まった。ここが暫しの仮住まいである。

当時、九龍地区ではその一帯のみ若干の高層ビルが見られるだけで、彌敦道の両側は三階建てレンガ作りの所謂"唐楼"が連続、しかもその二階以上が歩道の上部に覆いかぶさる華南から東南亜各地特有の"騎楼"形式の風景が脳裏に残っている。その一角にミラマホテルは建っていた。ペニンシュラホテルは別格として、当時彌敦道に面してはAmbassador International Presidentなどの国際級ホテルが数軒存在したが、それらに比較しても目立たない地味なホテルに過ぎない印象であった。

それが、その年の秋口からにわかに脚光を浴び、とりわけ日本人社会にとって注目の的に急変することになった。戦後香港における初めての本格的日本料理屋"金田中"の開店に他ならない。経営者が着目した立地上の優位性がどこにあったか知る由もないが、推測するにホテル内でありながら、一階（或いは二階だったかも知れない）の目抜き通りに面した一角の借り受けではなかろうか。しかし、そんなことはどうでもよいのであり、客にとっての最大の魅力は豪華な仲居さん連合であった。何分、ほぼ時を同じくして日本もようやく一般人の海外渡航を解禁したが、短期の観光客ですら希少な中、仕事のため女性が大挙して出向いて来たのだ。女性で海外を自由に行き来していたのは、今もなお懐かしい呼称スチュワーデス（近来は差別用語を理由に、Cabin Attendantの中性名詞に置換されている）だけで、女子大生の就職希望ランキングNo.1 彼女達の憧れの的であった時代だ。

そこで、その仲居さん達もスチュワーデス嬢に負けず劣らずの、容姿端麗（は確か）教養満点（？）の才媛揃いとあっては、男たるもの乏しい財布の底を叩いてでも、足を運ぶ回数を上げることに腐心せざるを得ないのは、世の常である。このころ、各社とも海外要員の強化に着手してはいたが、未だ外貨保有も豊かでない国情に加えて、収支見通しも不確かな段階で、家族の呼び寄せは赴任後３年後の条件で、単身赴任を余儀なくされている例も少なからずあるやに聞いていたから、一層のことであったのは想像に難くない。以上は拙い記憶の明の部分である。

一方、中国本土との出入りは極度に制限されており、余程の国家レベルの案件でもない限り、立ち入りの機会は春秋年二回の広州交易会止まりであった。それすらも、個人の行動の自由は許されず、ビザの取得に始まって経由地香港のホテル・広州までの列車の手配に到るまで、すべからく中国側公認の窓口であった日本国際貿易促進会（通称、国貿促）の手に委ねざるを得なかった。この国貿促と何らかの特殊な関係が存在したのか、香港での定宿がミラマホテルであり、否応なくそこに宿泊させられたものだ。ある時、事前に何の相談もなしに、全く見ず知らずの第三者との相部屋を当てがわれて、大いに憤慨したことがあったのは、記憶の暗の部分であった。

「第12回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告

■第12回香港フォーラムにて、日本香港協会が3年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！

「ベスト・イニシアティブ・アワード」を受賞したNPO法人日本香港協会

去る11月29日・30日、香港ビジネス協会世界連盟(Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内)の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第12回目の開催となった今年は、全世界から400名近くの会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムには、日本全国の参加者は昨年の98名を上回り、世界全体の総参加者数の30%を占める、総勢110名を数え、国別での参加者数が世界一となり3年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」を受賞した関西日本香港協会

「パーセンテージ・インクリーズ・アチーバー」として表彰された北海道、九州、広島協会

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、NPO法人日本香港協会(東京)が「ベスト・イニシアティブ・アワード(年間の活動・内容を表彰)」と「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード(会員数の増加を表彰)」の２つを、関西日本香港協会が「アウトスタンディング・メンバーシップ・アワード」を見事受賞しました。さらには、東京、関西、九州、広島、北海道の5協会が、会員数10%増加により、「パーセンテージ・インクリーズ・アチーバー」として表彰されました。

11月29日-30日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、ネットワーキングセッション、視察ツアー等多くのイベントが催されました。2日間のランチセミナーには、香港特別行政区政府ドナルド・ツァン行政長官、恒生銀行のCEOマーガレット・リョン氏が登壇し、貴重な講演に参加者全員が聞き入りました。視察ツアーでは創業123年を誇る李錦記の企業訪問、また、スカンジナビア・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン(SCAD)という美術大学の見学がありました。最終日のフェアウェルディナーでは世界中のメンバーが名刺交換をするなど国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。

■日本香港協会全国の9協会が全て香港に集まりました

香港貿易発展局フレッド・ラム総裁と各地日本香港協会の代表者

香港フォーラムの前夜祭に当たる11月28日夜には、例年通り六国ホテルにて第4回全国協会交流会が開催されました。交流会に先立って行われた全国連合会役員会には、来賓として在香港日本国総領事館の隈丸優次総領事にご列席いただき、今年一年間の各地の活動を振り返るとともに、来年度の事業計画について討議が行われました。また、新年度の連合会会長には沖縄の國場会長が選出されました。(任期は2012年4月から1年間)

全国交流会では本年の幹事である広島日本香港協会の進行のもと、ラルフ・チャウ香港貿易発展局プロダクト・プロモーション・ディレクターの歓迎挨拶、広島協会深山会長の開会挨拶に続いて、全国連合会の國場副会長と在香港日本国総領事館の岩崎徹領事のご挨拶も頂きました。今年は香港政府観光局のご好意で二胡の演奏が披露されると共に、宮城協会より、ユネスコ世界遺産にも登録されている「長袋田植踊り」の伴奏者である、会員沼田孝様による横笛の演奏が披露され、会場は大いに盛り上がりました。香港での年に一度の交流会には毎年110名以上の会員様にご参加いただいております。今年は120名以上の方に参加頂きました。今年ご参加いただけなかった方は、是非来年ご出席いただき、メンバーとの交流を深めていただければと思います。

全国協会交流会参加者集合写真

NATIONAL

日本香港協会 全国連合会

■「世界中小企業エキスポ」と「イノベーション・デザイン&テクノロジー・エキスポ」

WSMEE 中小企業基盤整備機構のブース

香港フォーラムが幕を閉じた翌日の12月1日より3日間にわたり、「世界中小企業エキスポ(WSMEE)」と「イノベーション・デザイン&テクノロジー・エキスポ(IDTE)」が開催されました。WSMEEでは、独立行政法人中小企業基盤整備機構の傘下で全国の支援企業数社が出展しました。また、フランチャイズ・ゾーンでは株式会社ライトナウがメイド・カフェを出展し、多くの来場者の目を引きました。

IDTE「Area Aid Design Project JDP 東北茨城デザインプロモーション」

同時開催のIDTEでは、財団法人日本産業デザイン振興会が主催、独立行政法人中小企業基盤整備機構が共催し、東北および茨城県の「伝統的ものづくり企業」「技術系ものづくり企業」及びデザイナーなど95社の製品を日本パビリオンにて特別出展しました。これは、東日本大震災の被災地域と産業の復興を目的とした「Area Aid Design Project JDP東北茨城デザインプロモーション」の一環として実施されました。震災以降、日本のものづくりは世界中から注目をあびていることもあり、今回の出展では多くの来場者がパビリオンに訪れ、日本の伝統工芸品に魅了されていました。

■全国事務局長会議を開催いたしました

2011年度事務局会議集合写真

去る8月26日(金)、香港貿易発展局東京事務所に於いて2011年度全国事務局長会議を開催いたしました。当日は全国9協会の事務局長・代理の局員の皆様と、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部と香港政府観光局の方にもオブザーバーとして出席いただきました。各協会からの活動実績報告及び活動予定の発表を行ない、また協会間での有意義な情報交換の場となりました。会議の後は懇親会を行ない、昨年同様NPO日本香港協会のご好意でAYOコンサートへご招待をいただき、事務局間での交流も深めることができました。

TOKYO

NPO法人日本香港協会

アジア・ユース・オーケストラ

アジア・ユース・オーケストラ

第22回高松宮殿下記念世界文化賞「第14回若手芸術家奨励制度」の対象団体に選定されたアジア・ユース・オーケストラ(AYO)は2011年度、アジア各国から厳しいオーディションを経て選出された17歳から27歳までの若き音楽家約100名を迎え6週間におよぶ、リハーサルキャンプ、そしてコンサートツアーを終えました。クラシック界期待の若手ヴァイオリン奏者、ステファン・ジャッキウ氏を迎えて行われた本年度のツアーは、音楽家たちのひたむきな努力が認められ、各都市で高い評価と称賛を受けました。

2011年度、AYOの日本でのオーディションは、震災直後の3月12日に行われ、受験者の減少、被災地での惨状を目の当たりにしました。

東日本大震災を受け、訪日外国人が減少している中、同オーケストラでは、アジア各国から総勢100名の音楽家たち、そしてスタッフが天津、北京、クアラルンプール、シンガポール、ハノイ、バンコク、香港、台北にてコンサートツアーを行い、東京にてフィナーレを迎えました。これを受け、AYOは、観光庁より日本の観光促進に寄与したとして、感謝状を授与されました。

さらに、今年21年目を迎えた東京でのフィナーレでは世界文化賞を主催している日本美術協会の総裁、常陸宮殿下、妃殿下のご臨席を賜り、1200人に上る観客が見守る中、8月28日演奏を行いました。

音楽を通じてアジアの地域を結びつけ、アジアの優秀な才能を開花させるという目的で、非営利団体として1989年に設立された、AYOはこれからも、アジア各国で音楽を通じた文化交流の懸け橋として活動してまいります。

文化講演会「中国語圏映画の現在と未来～香港・中国・台湾・シンガポール～」

10月1日(土)、字幕翻訳家でアジア映画研究家の松岡環先生を講師にお招きし、日本シンガポール協会との共催で文化講演会を催しました。"中国資本の入った大作・時代劇と香港テイストの低予算映画"という二極化が進む香港、製作本数が急増する中国、インディーズ系監督による娯楽作品も話題のシンガポールといった現状をドニー・イェン、ジョニー・トー監督はじめ映画人のエピソードも交えながら、楽しく解説いただきました。熱心な女性映画ファンも多く、会場は満席。講演後にはシンガポール料理のバイキング。そしてSPO、フリーマン・オフィス、染野電影工作室等各社にご提供いただいた映画ポスターのプレゼント、松岡先生がご用意されたおみやげも配られて大いに盛り上がりました。関係各社の皆様のご協力に感謝いたします。

講演をされる松岡環先生

Brothel考

題名を見て皆さんはBrotherの誤りではないかと思われたかも知れない。筆者は言語学には疎いが、RとLの違いで、"Brothelに行った人はみな兄弟"と考えると、英語は実によくできていると思う。

ロンドンに住んでいた頃、某brothelの美人経営者が何らかの理由で警察に数日留め置かれ、無事釈放された時のことだ。当時の新聞では保守党、労働党の錚々たる連中が、それぞれ花束をもってお祝いに駆け付けたと報じられた。筆者から見るとまことに羨ましいほど開放的だと感激したものだ。最近でもイタリアの首相とかIMFの元専務理事とか女性問題で華々しく紙面を賑わせている。日本もこの面では遅れていたが、最近では若い議員が堂々と路上で美女とキスとかかなり開放度が進んだ。

もう半世紀ほど前だが、イギリスの保守党政権の陸相プロヒューモ氏とキーラー嬢の事件というのがあった。筆者は単純に流石老大国イギリスでは大臣でも奥さん以外の女性と交際ができるのかと感心したものだ。ところが当時は冷戦華やかなりし時代でもあり、旧ソ連のスパイがキーラー嬢を介して軍事機密を盗んだとされ、映画にまでなったように記憶している。プロヒューモ氏の奥さんは美人女優とのこと。なんであのような美人がいるのになどとつまらぬことを考えた覚えがある。キーラー嬢のいたナイトクラブはピカデリーサーカスの一角にあった。後学のために覗きに行ったがまさしくキーラー嬢まがいの美女がキラ星のごとくならんでいた。

さて香港だが、今まで残念ながらナイトクラブ見学の機会に恵まれなかったが、最近香港紙でBrothelなる言葉に久しぶりで対面した。

香港・民主党の幹部がチムサアチョイのbrothelから出てきたところを新聞記者に捉まってしまったとある。つまらぬ言い逃れをしなければ良いのに90年代から売春婦などの人権保護活動を行っており、今回も聞き取り調査をしていたところだという。党の方もそれほど有名な政治家でもないので早期解決を図ったのか、翌日党首に辞表を提出し受理されたとのことだ。この記事を見て、香港も日本並みになってきたのかと思っていたら、派手に美人がからまないだけでこの種の事件はかなり前から幾らでもあったらしい。それ故に処理も迅速だ、流石に香港は進んでいる。

湾　仔

関西日本香港協会事務局

法人会員交流会

関西日本香港協会では一昨年来法人会員の充実に努めてきましたが、年々香港に対する関心が高まっていることもあり順調に会員数が増えています。今年の法人会員数の目標70社に対し8月末時点で既に69社になりました。法人会員の増加により協会の財務基盤を強化し、より充実した内容の活動を目指しています。最近では、成長するアジアのマーケットに参入する目的でアジアのビジネス拠点である香港に先ず注目する若手経営者の入会が増えています。香港がサービス産業分野で著しく発展していることもあり、観光業、IT企業、不動産・建築設計、情報産業、中国ビジネスのコンサルティングなどの若手中小企業経営者の新規会員が目立ってきました。このような国際化を志向した若手経営者や種々な業種の法人会員のニーズに応えて協会活動を活発化していくために、充実した内容のセミナーや会員同士の交流会を実施し、香港貿易発展局の香港に関する情報機能とビジネスマッチングサービスを利用してもらうことにも注力しています。

7月21日には西日本で唯一イタリア政府認定の本格的イタリア料理店「コロッセオ」で法人会員交流会を実施し、20名の参加者が夕食懇親会を楽しみました。30年前にレストランを開店された㈱メモスのカンタトーレ・ドメニコ社長は、イタリア香港協会のＶＩＰ会員でイタリア商品の輸入業に成功している大変著名な方で、日本に留学して事業に成功された経験談や大阪の将来性やビジネスのコツなど大変興味深く有意義なお話をしていただき、自家製イタリアワインと美味しいイタリア料理をいただきながらの楽しい夕食懇談会でした。

ＣＭＭＳ第9期開講式

日本香港協会全国連合会主催、日本香港協会及び関西日本香港協会共催で実施される第9期チャイニーズ・マネジメント＆マーケティング・スクール（CMMS）の開講式が9月1日に香港貿易発展局の東京と大阪事務所の会議室で同時開催されました。今年のCMMSは香港貿易発展局が新しく導入したテレビ会議システムを使って東京と大阪で同時受講できる初めての試みで、語学編を合わせると57名の受講生でスタートすることになりました。今回は、ほとんどの受講生が全30講義を受講し今まで以上に受講生の高い意欲が感じられるCMMSです。

開講式は、CMMS講義のモデレーターを勤める馬場正修氏（関西日本香港協会理事・華人経済経営研究部主任研究員）の司会で進行され、関西日本香港協会理事・事務局長戒田真幸氏の開会挨拶、日中経済貿易センター代表理事青木俊一郎氏の来賓祝辞「CMMSへの期待」、関西日本香港協会理事・華人経済経営研究部長斎藤治氏と二松学舎大学国際政治経済学部教授で日本香港協会理事の手島茂樹氏によるCMMSに関する特別講演、受講生の自己紹介など盛り沢山の内容で、最後に日本香港協会理事長の原田光夫氏の閉会の挨拶でCMMS開講式を盛会裡に終了しました。

香港中秋節パーティー2011

香港中秋節パーティー2011の開会挨拶をされる木全千裕会長

会員の懇親を目的にした恒例の香港中秋節パーティーを9月21日にヒルトン大阪で開催し、64名の参加者が中華料理のディナーパーティーを楽しみました。当日は、大型台風が紀伊半島南部の海上を通過する日に当りパーティーの開催が危ぶまれましたが、大阪地区は雨風大したこともなく無事パーティーを実施することができました。

木全千裕会長の開会の挨拶でパーティーが始まりました。香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏に歓迎のご挨拶をいただくことになっていましたが、台風の影響で一部区間新幹線がストップして東京から来ていただけなかったのが残念でした。中華人民共和国駐大阪総領事館、近畿経済産業局、関西経済連合会、大阪商工会議所などから多数来賓の方が参加していただき、来賓を代表して中華人民共和国駐大阪総領事館の副総領事コンドズ・ユスフ氏が挨拶され、乾杯の音頭をとられました。

今年のアトラクションは、「葉よ花よ」「あみだ詩」「神子」と題した3本のCDが発売されて活躍している歌手の来生享子さんに沖縄の歌「あさどやゆんた」「娘ジントヨー」「涙そうそう」「島唄」「豊年音頭」などを、八重尾雄大さんのピアノと吉川弾さんのドラムの素晴らしい伴奏で歌ってもらい、楽しい雰囲気で会場が盛り上がりました。最後に副会長の田中義次氏の閉会挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

歌手来生享子さん（中央）とピアノ八重尾雄大さん（左）、ドラム吉川弾さん（右）

CHUKYO

中京日本香港協会

香港と私との出会い

中京日本香港協会会長　豊島 徳三

中京日本香港協会会長に2010年10月に就任した豊島徳三と申します。香港も協会も右も左も分からずの私です。皆様、よろしくお導き頂き会長としてその責務を全ういたしたいと存じます。

当協会は1990年に創設され初代会長谷口清太郎氏、第二代会長高橋治朗氏の後を受け継いで、いわば第三代会長です。

私と香港との出会いは昨年迄55年間勤務いたしました在名古屋商社T社の時代でした。1960年頃、生まれて初めての外国の地を踏んだのが香港でした。元々香港この音の響き、エキゾチックなそしてオリエントの香り漂うものに憧れを抱いておりました。当時、オーストラリア、ニュージーランドにてオセアニア・マネージメント・セミナーに生意気にもパネラーとしての旅でした。多分、名古屋からの直行便もなく名古屋-香港はJAL便で香港-シドニーはBOAC便のトランジットの為だったと思います。街角の喧噪、独特の匂い等群がるジャンクの中を海上レストランのあるアバディーンへ。子供達へコインを投げる風景、今でも鮮明に記憶しています。1950年当時T社は名古屋貿易連合＝CONTEの一員としてオフィスを構えました。トンネル、地下鉄もなくハーバーを往き来するのもスターフェリーのみ。夜更けて"ワラワラ"をハイヤーしてのご帰還でした。跳ね板、鎖の音、水兵服、銅鑼の音は旅情を誘われたものです。街角の換銭店での両替、巨大な算盤、見るもの触れるものに驚きの連続でした。1970年代にT社の現地法人設立により新しい局面を迎え、出張の機会も増え、新界の国境近く、多分落馬洲辺りでしょう。丘の上から眺めると水辺に水牛がゆっくり歩み、川辺では漁をする人でしょう、黒っぽい工人服が群がっている様子でした。

現在は、全て高層ビル、高速道路で嘘みたいです。文化大革命の煽りからの暴動騒ぎや、ベトナム戦争、あの美しい夢のようなビクトリアハーバーには米第七艦隊のエンタープライズや英海軍の空母ブルーワーク等がこれみよがしに威圧するかの様に錨を下ろしていた頃、4日に4時間のみの給水と水がめが枯れた等々困惑と厳しい現実の時代も一時経験しました。時には集中豪雨から高層マンションの崩落も目の辺りにした事もありました。真白いグルカ兵の服装、銃を手に守衛の立つペニンシュラホテル、一度は泊まりたいと横目に過ごした時もありましたが、念願かなって時々は…。初めの頃、ザ・ロビーの長い軸のマッチを得意気に土産とした頃もありました。福臨門で一斤も知らずに「鮑」を大量に予約した大失敗もありました。東莞市に合弁工場を立ち上げ、香港経由での入出国の機会も多く、その度に道路、ビル、生活感等、急激に進む開発、近代化を見るにつけても今昔の思いと驚きの外ありません。

正に今や「ニュー・ロン・コン」と称される通り世界に誇り得る経済、金融の中心たる都市としての地位とは揺るぎないものでしょう。実は、私自身海外駐在経験は北米のみでして香港は全くなく、あくまでも「出張」のみです。多くの方々から誤りや失笑を買う事も承知の上で拙文を寄稿いたしました。掲載の集合写真は今年の夏、当協会会員、家族の懇親会名古屋港ランチ・クルーズ（参加者約70名）でのものです。今後も、会員増強と公私にわたり、日本と香港を通じて中国本土との絆としての役割を全うすべく努力、精進して参る所存です。よろしく。再見、多謝。

飛龍　No. 69　2011年12月 発行　（禁無断転載）

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901　FAX(03)5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京)
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話(03)5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話(06)4705-7030

中京日本香港協会
〒460-0003　名古屋市中区錦2-11-27　TH錦ビル8階
株式会社喜楽内　電話(050)3620-2517

九州日本香港協会
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2丁目9-28　会議所ビル
(社)福岡県中小企業経営者協会内　電話(092)451-8593

山形日本香港協会
〒990-2432　山形市荒楯町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内　電話(023)633-2110

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内　電話(011)261-4288

宮城日本香港協会
〒980-0811　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内　電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話(098)868-3758

広島日本香港協会
〒730-0052　広島市中区千田町3-7-47　広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構　国際ビジネス支援センター内
電話(082)248-1400

URL　http://www.jhks.gr.jp

辛亥革命100周年記念フォーラム

九州日本香港協会　事務局

ジョナサン・チョイ氏

西日本新聞社主催、九州日本香港協会他の共催で「辛亥革命100周年記念フォーラム・交流夕食会」が7月29日（金）、グランドハイアット福岡にて開催されました。本フォーラムは香港を拠点とする財閥「新華集団」の総裁で、香港中華総商会の会頭である蔡冠深（ジョナサン・チョイ）氏が九州を訪問するのに合わせて企画。チョイ氏、孫文ゆかりの九州3県の小川洋福岡県知事・中村法道長崎県知事・蒲島郁夫熊本県知事、九州日本香港協会の石原進会長の5名のパネリストが登壇。梅屋庄吉、宮崎滔天、安川敬一郎など孫文を物心両面で支援した九州の人々への思いをはせながら、観光、商業、文化などの今後の交流について意見交換が行われました。

西日本新聞社・川崎隆生社長の主催者挨拶でフォーラムをスタート。チョイ氏から「私は孫文と同じ広東省中山市出身だが、香港と中山市、九州は関係が深い。九州は日本の南に位置し、古くから海外からの入り口として栄え、さまざまな思想なども九州を通じて広がった。そうした点は広東や香港とよく似ている。この3地域（香港、広東、九州）は中国の近代化、日本の近代化に非常に大きな役割を果たしてきたという共通点がある。今後、孫文ゆかりの観光資源を九州の皆さんにどんどん開発してほしい。中国からの観光客を引きつける魅力となるだろう。また、九州の皆さんには心より感謝している。九州の人がいなければ辛亥革命はより困難だったからだ。今後も香港と九州の人々が交流を深め、中日のさらなる友好の一助になればと思う。」との発言があった。

これに対し九州3県知事は『私は知事就任以来、東アジアとの交流を拡大して地域を活性化しようと考えている。九州にとって東アジアは大切な相手だ。長崎県に来る海外の観光客の7～8割は中国、韓国、台湾、香港の方々。少々のことではびくともしない友好関係を築きたい。そのために孫文と九州の人物の交流の実績、ゆかりの地を積極的に紹介する必要がある（中村長崎県知事）」「九州各県レベルではなく、九州全体として香港と付き合い、交流を深めることが大事だ。九州のための通商、観光推進、友情を確立することが、梅屋庄吉、宮崎滔天など交流の努力を続けてきた先人への恩返しとなる。今回のシンポジウムは、将来に向け私たちに何ができるか、考えるきっかけになった（蒲島熊本県知事）」「東日本大震災以降、福岡県への観光客は激減している。このため九州地方知事会や九州観光推進機構は中国などで『九州は安全安心で魅力にあふれ、おもてなしができる』とPRしている。国と国、地域と地域の交流は、人と人の信頼関係があって成り立つ。孫文を支援した人が九州に多くいたことに思いをいたせば、九州と中国の関係はより緊密になる（小川福岡県知事）」など、「九州一体となって情報発信などに取り組む」などと発言した。

フォーラムの様子

また石原九州日本香港協会会長は「多くの九州人が孫文の革命を支援してきたことを日中両国民に知ってもらいたい。安定した日中友好関係のためにも必要なこと。日本と中国は双方にとって最も重要な関係なのに、政治が絡むとすぐにギクシャクする。長期の安定した関係を築くにはどうしたらいいか。孫文は、神戸で行った大アジア主義の講演の中で『西洋覇道の番犬となるか、東洋王道の干城となるか』と日本人に問い掛けた。武力を用いて人を圧迫する覇道ではなく、徳によって人を慕わせる王道が、アジアの発展をつくると説いたのだ。これは今も相通じるところがあると思う」と語った。

フォーラム、またその後に行われた交流夕食会には九州政財界、香港貿易発展局をはじめとして、多数の方々の参加があり、大盛況となりました。これまで九州の人々が築き上げてきた九州と中国、香港の関係をあらためて認識するとともに、今後、この関係がますます発展することを期待させる大変意義のあるフォーラム・交流会であったと思います。

交流会の様子

YAMAGATA

山形日本香港協会

香港生活14年を振り返って

山形日本香港協会会員　リブネ 宮崎 紀子

香港中文大学の日本語クラスの学生と

夫の転勤で北京での3年半の滞在を終え、香港に引っ越したのは、ちょうど中国返還の年だった。北京暮らしは物価が安く、胡弓や書道、中国料理、中国語などの習い事をしたり、中国音楽のコンサートを聞きに行ったり、ショッピングセンターに生地を買いに行って、好きなデザインに安く仕立ててもらうなど楽しみも多くあった。その反面、当時住んでいたマンション付近は人民解放軍の若い兵士が隊列を組んでパトロールする光景が日常的に見られるなど、外国人としての暮らしはどこか窮屈で緊張感が伴うものだった。香港では人々は自由闊達に生き、当局の監視もない。何事も制約されないという解放感を感じ、それがとても嬉しかった。当時はまだ日本語学習熱が高く、北京の大学の日本語学科で教えていた経験もあって、半年ほど語学学校で広東語を習った後、私はすぐに日本語教師の職を得ることができた。

日本語の授業と準備に追われながらも、この頃は香港に来て間もないこともあって、ガイドブックに載っている有名レストランや流行のスポット、離島などをよく訪れた。香港の街はおもちゃ箱をひっくり返したような楽しさがあり、街はカラフルに彩られ、夜はネオンが華やかに輝く。飲茶ランチやホテルでのアフタヌーン・ティー、ハロウィン・パーティー、中国の伝統行事など、香港の楽しみ方は多彩だ。北京では中日青年交流中心で開催されていた一部の講座を除いて、中国語でしか習い事ができなかったが、香港では日本人の先生や日本語を話す香港の方が沢山いらして、いろいろな習い事が日本語で受けられたのが嬉しかった。今も続けている生け花の他、ワイン、料理、ゴルフ、漢方、風水、アロマセラピー、中国茶道など時間の許す限りレッスンを受けて、知識を吸収した。

香港で日本語教師を始めて、3年経った頃、大学の日本研究学科でPart-time　Instructorとして日本語のコースを担当させていただくことになった。以来、ずっとお世話になり、嬉しいことに「勤続10年の表彰状」までいただいた。この間、自分のクラスの女子学生3人を故郷・山形に案内して、5泊6日のホームステイプログラムを実施した。母校・山形大学人文学部の先生方が協力してくださり、大学訪問及び学部長との懇談会や学生有志との交流会、着物を着ての山形市民茶室「宝紅庵」での抹茶体験などのほか、山寺立石寺を訪ねたり、仙台の作並温泉の温泉旅館に日帰りで行ったりと盛りだくさんの内容だった。その時の女子学生達とは、卒業後の今でもfacebookで近況を報告し合い、定期的にディナーを共にしたり、能の公演を見に行くなど交流が続いている。

娘が生まれて1年半が経った頃、子どもが小さい今しか時間がないと思い、香港の大学の大学院へ進学した。専攻は日本語学及び日本語教育学である。日中は育児と日本語の授業をこなし、夜は学生に戻って講義を受け、課題に取り組む毎日の始まりである。学問の厳しさを痛感する日々だったが、なんとか無事に修士号をいただいて、課程を修了することができた。

その娘も今では小学1年生である。インターナショナルスクールに通っているが、この学校は年に1回、先生と保護者が参加するパーティーがあり、今年はインターコンチネンタルホテルのボールルームで開催された。フルレングスのドレスで豪華なジュエリーを身にまとい、タキシードを着込んだ保護者達が次々に会場に辿りつく。写真を撮ったり、シャンパンをいただきながら、先生と談笑して開場を待つ人たち。会場は全体が意趣を凝らして華やかに飾られ、フルコースのディナーの他、寄付金を目的としたオークションが次々と競り落とされていく。ステージでは高等部の学生の独唱などパフォーマンスも披露され、香港らしい華麗な一夜だった。

娘が幼稚園に通っている頃、香港在住の日本人の母親達の間で、日本人補習授業校の設立を目指す活動が始まった。私も設立準備委員会のメンバーとして微力ながら活動を始めた。それが今、実現し、今年の4月に開校するに至った。学校は無事に軌道に乗り、現地校の校舎を借りて、毎週土曜日の午前中に3時間の授業を行っている。娘も元気に通っていて、私も最近まで補助教員として参加させていただいていた。今回、いろいろな方の善意が集まって、学校設立という夢が実現した。「香港ドリーム」という言葉があるそうだが、香港は意欲のある者に大きなチャンスを与えてくれる街だと思う。どこかに必ずチャンスが転がっている。それが香港である。この魅力的な街での生活は、まだまだ終わりそうもない。

中秋節の夜に自宅で娘と

HOKKAIDO

～香港貿易発展局　主催～

「香港フードエキスポ 2011（Food Expo 美食博覧）」に参加しました

北海道日本香港協会 事務局

北海道日本香港協会では、2011年8月11日から13日までの3日間、香港コンベンション＆エキシビジョンセンターで行われた「香港フードエキスポ2011」への参加・視察を行いました。今回はその模様をご報告いたします。

香港フードエキスポ2011　北海道ブース

世界最大規模の食品見本市

香港貿易発展局が主催する「香港フードエキスポ」は、24ヶ国・地域、607社が参加、来場者はバイヤー・業界関係者が1万人、一般入場者を含めると35万人にものぼる、世界最大規模の国際食品見本市です。北海道企業も香港市場への参入を目指し毎年参加していますが、本年度は「北海道ブランド　アジアへの販路拡大戦略プロジェクト」として、札幌商工会議所が中心となり参加企業を募り、北海道日本香港協会会員を含む過去最大の18社が出展しました。

開催前日には、香港貿易発展局主催の食品セミナーが開催され、香港貿易発展局東京事務所伊東正裕次長より、香港の概況、香港の日本食品動向について説明を受けました。伊東氏は、「香港は先進国水準の商習慣・生活レベルを持っており、食に対するこだわりが高い。物流・流通インフラに加え、知財保護などの法制度面も整備されている。香港への進出は、中国大陸やASEAN地域への販路拡大に繋がる可能性もあり、「北海道ブランド」を活用して積極的にチャレンジしてほしい。」と講演されました。講演終了後には出展企業とのあいだで活発な意見交換が行なわれるとともに懇親会が開催され、翌日のフードエキスポに向け大変有意義なセミナーとなりました。

搭乗を待つ札幌行き旅行客

地元テレビ局の取材

開催当日は、東日本大震災の影響により、地元消費者の日本産食品への安心感が揺らいでいるとの報道もあり、北海道ブースを訪れるバイヤーの反応に不安もありましたが、ブースの賑わいの様子を地元テレビ局が取材するなど、注目度は高く、出展企業一同は一安心。連日、積極的な商談が行われました。

香港ビジネスの手ごたえ

今回出展した各企業に感想を聞いたところ、「東日本大震災の影響を懸念していたが、安心・安全な北海道をアピールすることができ有意義だった。」「初めてのチャレンジだったが、早速見積もり依頼があるなど手ごたえを感じている。」「タックスフリーで通関もスムーズなのが魅力」等、皆、香港ビジネスの手ごたえを感じ取られた様子で、大変有意義なものとなりました。

また、震災以降、北海道を訪れる香港からの旅行客は減少傾向にありましたが、札幌行きのキャセイパシフィック航空便はほぼ満席で、震災前の状況に回復していることを感じました。

北海道日本香港協会では、今後も香港関連の情報提供、ビジネスサポートを関係機関と連携しながら行っていく予定です。

HOKKAIDO

～香港貿易発展局　主催～

「香港フードエキスポ 2011（Food Expo 美食博覧）」に参加しました

北海道日本香港協会 事務局

北海道日本香港協会では、2011年8月11日から13日までの3日間、香港コンベンション＆エキシビジョンセンターで行われた「香港フードエキスポ2011」への参加・視察を行いました。今回はその模様をご報告いたします。

香港フードエキスポ2011　北海道ブース

世界最大規模の食品見本市

香港貿易発展局が主催する「香港フードエキスポ」は、24ヶ国・地域、607社が参加、来場者はバイヤー・業界関係者が1万人、一般入場者を含めると35万人にものぼる、世界最大規模の国際食品見本市です。北海道企業も香港市場への参入を目指し毎年参加していますが、本年度は「北海道ブランド　アジアへの販路拡大戦略プロジェクト」として、札幌商工会議所が中心となり参加企業を募り、北海道日本香港協会会員を含む過去最大の18社が出展しました。

開催前日には、香港貿易発展局主催の食品セミナーが開催され、香港貿易発展局東京事務所伊東正裕次長より、香港の概況、香港の日本食品動向について説明を受けました。伊東氏は、「香港は先進国水準の商習慣・生活レベルを持っており、食に対するこだわりが高い。物流・流通インフラに加え、知財保護などの法制度面も整備されている。香港への進出は、中国大陸やASEAN地域への販路拡大に繋がる可能性もあり、「北海道ブランド」を活用して積極的にチャレンジしてほしい。」と講演されました。講演終了後には出展企業とのあいだで活発な意見交換が行なわれるとともに懇親会が開催され、翌日のフードエキスポに向け大変有意義なセミナーとなりました。

搭乗を待つ札幌行き旅行客

地元テレビ局の取材

開催当日は、東日本大震災の影響により、地元消費者の日本産食品への安心感が揺らいでいるとの報道もあり、北海道ブースを訪れるバイヤーの反応に不安もありましたが、ブースの賑わいの様子を地元テレビ局が取材するなど、注目度は高く、出展企業一同は一安心。連日、積極的な商談が行われました。

香港ビジネスの手ごたえ

今回出展した各企業に感想を聞いたところ、「東日本大震災の影響を懸念していたが、安心・安全な北海道をアピールすることができ有意義だった。」「初めてのチャレンジだったが、早速見積もり依頼があるなど手ごたえを感じている。」「タックスフリーで通関もスムーズなのが魅力」等、皆、香港ビジネスの手ごたえを感じ取られた様子で、大変有意義なものとなりました。

また、震災以降、北海道を訪れる香港からの旅行客は減少傾向にありましたが、札幌行きのキャセイパシフィック航空便はほぼ満席で、震災前の状況に回復していることを感じました。

北海道日本香港協会では、今後も香港関連の情報提供、ビジネスサポートを関係機関と連携しながら行っていく予定です。

MIYAGI

宮城日本香港協会

2011通常総会及び記念セミナーを開催

宮城日本香港協会 事務局　武田　功

2011通常総会及び記念セミナーを開催しました

記念セミナーで講演される奥島氏

9月6日(火)パレスへいあんにおきまして、震災で延期されていた通常総会及び記念セミナーを開催、来賓として全国連合会・伊東管理部長御臨席のもと、知事代理として宮城県海外ビジネス支援室・鈴木室長、市長代理として仙台市国際プロモーション室伊勢室長にご出席頂き、47名の出席を得、事業報告・収支決算、事業計画(案)・収支予算(案)について可決・承認されました。続く記念セミナーにおいては、ジャパン・インターナショナル・トレーディング(株)代表取締役社長の奥島正氏による「農林水産物の輸出状況と日本酒マーケット事情」と題した講演があり、その後懇親会もあって、有意義な会合となりました。

東日本大震災チャリティ・コンサートを開催しました

8月11日(木)、常盤木学園高等学校シュトラウスホールに於いて、NPO法人「美・JAPON」との共催で、「ひびきあう心コンサート」を開催、大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」のテーマソング作曲家・吉股良氏や、奄美島唄の唄者・朝崎郁恵さんら6名による演奏や唄、踊りに、暑いなか、約270名の人たちが参加、さとう宗幸さんによる有名な「青葉城恋歌」の披露もあり、盛大に開催することができました。震災チャリティということもあり、見舞金15万円を、同30日、佐々木会長から被災地・名取市の太田副市長に届けていただき、「私たちの思いが少しでも届いてほしい」との参加者の心がひびいた、心温まるコンサートとなりました。

吉股氏の演奏と朝崎さんの島唄

東日本大震災で被災された会員に見舞金をお渡ししました

佐藤副代表理事から見舞金をお渡ししました

8月19日(金)、JTB東北本社において、会員の方に佐藤副代表理事から見舞金をお渡ししました。法人会員9社、個人会員７人の方々に真心をお伝えすることができ、日本香港協会の真心にとても感謝していました。

OKINAWA

沖縄日本香港協会

平成23年度　通常総会　開催

沖縄日本香港協会　事務局

沖縄日本香港協会平成23年度通常総会が9月29日(木)午後5時より「かりゆしアーバンリゾートナハ」にて開催されました。

沖縄日本香港協会の國場幸一会長は懇親会の冒頭で、「香港から沖縄への観光客が確実に増えており、沖縄と香港の結びつきは強くなっています。昨年、香港ワインを製造するベンチャー企業を視察したが、香港は国際的な金融都市でありながら、中小企業も元気がある。このような香港の現在の発展を支えてきた大きな要因として一国二制度があると考えています。現在、沖縄の新たな振興計画が議論されていますが、香港に学ぶことは多いと考えます。沖縄日本香港協会の活動を通じてアジアにおける沖縄の将来を考えていきたい」と挨拶しました。下記の通り平成22年度事業報告・平成23年度の事業計画が、全会一致で承認されました。

本年は沖縄弁護士会との共催(予定)で、香港・中国・台湾より弁護士を招聘し、中国・香港・台湾・沖縄「アジアのビジネス展開に必要な法制度の相互理解」と題しアジア・ビジネス・リーガル・シンポジウムIN沖縄2011(仮称)を開催予定していることが発表され、シンポジウムの成功に向け、関係各位への協力依頼がありました。

沖縄日本香港協会では、今まで以上に幅広く多くの団体・関係者と連携を深めながらより良い事業を展開していきます。

平成22年度事業報告

○日本香港協会　全国交流会への参加
　日　時:平成22年11月30日(火)18:30～
　場　所:香　港(六國ホテル)

○香港フォーラムへの参加
　日　時:平成22年12月1日(水)～12月2日(木)
　場　所:香港コンベンション＆エキシビジョン　センター
　主　催:香港貿易発展局、沖縄日本香港協会参加者　6名

○沖縄日本香港協会　春節セミナー・春節パーティーの開催
　日　時:平成23年3月11日(金)
　場　所:ザ・ナハテラス　3階　アダンの間
　主　催:香港貿易発展局　沖縄日本香港協会
　後　援:那覇商工会議所　　参加人数:77名
　(1)春節セミナー　　15:30～17:00
　講　演:「中国返還後の香港の軌跡と躍進の原動力について」
　講　師:香港貿易発展局　日本首席代表　古田茂美　氏
　事業案内:田中洋三氏　(香港貿易発展局　大阪事務所次長)
　(2)春節パーティー　17:00～18:00
　来　賓:知念榮治　氏(沖縄県経営者協会　会長)
　古田茂美　氏(香港貿易発展局　日本首席代表)

○沖縄国際物流ハブ事業１周年記念事業IN香港への協力
　(1)企業誘致セミナー
　主　催:沖縄県
　日　時:平成23年1月14日　15:30～17:30
　場　所:リーガル香港ホテル
　(2)感謝の夕べ
　主　催:沖縄県知事
　日　時:平成23年1月15日　18:00～19:30
　場　所:エクセルシオール香港ホテル
　来　賓:フレッド・ラム　氏(香港貿易発展局　総裁)

沖縄日本香港協会　平成23年度　事業計画

○沖縄日本香港協会　平成23年度　通常総会・懇親会の開催
　日　時:平成23年9月開催予定
　場　所:かりゆしアーバンリゾートナハ

○アジア・ビジネス・リーガル・シンポジウムIN沖縄2011の開催
　中国・香港・台湾・沖縄「アジアのビジネス展開に必要な法制度の相互理解」
　共　催:沖縄日本香港協会　沖縄弁護士会(予定)
　日　時:平成23年11月11日(金)13:30～17:00
　場　所:ザ・ナハテラス

○日本香港協会　全国交流会への参加
　日　時:平成23年11月28日(月)
　場　所:香　港(六國ホテル)

○香港フォーラムへの参加
　日　時:平成23年11月29日(火)～11月30日(水)
　場　所:香港コンベンション＆エキシビジョン　センター
　主　催:香港貿易発展局

○春節香港ビジネスセミナー＆懇親会の開催(2012年2月上旬予定)

香港企業招聘し、環境関連、食品関連の商談会を開催

広島日本香港協会　事務局

香港・中国ビジネスフォーラム(環境ビジネス編)、環境関連商談会

基調講演でのチェン氏

平成23年度広島日本香港協会事業第一弾として、7月20日(水)に香港環境保護工業協会会長・ダンウェル・グループ社長ダニエル・チェン氏、Dunwell Enviro-Tech(Holdings)Ltd.事業開発本部長ビクター・リー氏を招聘し、香港・中国ビジネスフォーラム(環境ビジネス編)に続いて会員企業との商談会を開催しました。

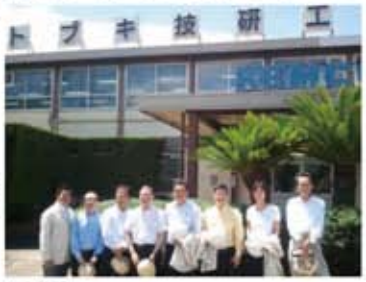
チェン氏は、「求む！日本の環境技術:香港・中国における最新環境産業動向」と題して、講演をされました。現在の香港・珠江デルタ地域が抱えている問題として、重工業・サービス業の成長による製造業での営業コストの高騰が制約になりつつある点を挙げられました。しかしながら、当地区における香港資本工場のグリーン技術・サービスへの需要はますます高まっており、第12次5カ年計画においても、環境保護予算は大幅な増大を見せています。このような現状の下、中国マーケットに参入するには、中国ビジネスを開拓することに伴うリスク、不安要素を取り除くため、適切なパートナーの発掘が必要であることを述べられました。

続いてのリー氏の講演は、「香港企業の対中環境産業の参入-日系企業のパートナーの観点から」ということで、Dunwell社の技術をどのように環境保護に生かしてきたか、更に国際マーケットの開拓にあたり、日本企業はもとより、アジア諸国とどのように連携してきたかという同社の経験を話されました。

リー氏の講演

講演後、約50名の参加者からは香港・中国の市場の現状、中小企業の参入可能性など、多岐にわたる質問があるなど、活発な意見交換がなされました。いわゆる大企業としての出発ではないDunwell社に、学ぶところが多いと感じた企業も少なくなかったようです。

その後の会員企業との商談では、広島の企業3社から商品説明があり、持ち時間一杯情報交換が行われました。また、翌日には県内の2企業を訪問し、広島県の環境技術を見学しました。Dunwell社のお二人からの技術に対する熱心な質問もあり、予定時間をオーバーしての訪問となりました。お二人にとっては、初の広島訪問であったとのことで今回をきっかけに、今後の会員企業と香港環境業界の繋がりが太くなっていくことが期待されます。



企業訪問

食品関連商談会

去る9月8日(木)、シティ・スーパー・ジャパンを招聘し、商談会を開催しました。広島の食品メーカーの商品は、多数がすでに香港の様々な場所で定番化しており、気軽に味わうことができます。今回は、香港でも高級な日本食品を取り扱うことで名高い同スーパーに、より高品質な広島の商品をPRすることにしました。

当日は9社が参加。中には8月に香港で行われたフード・エキスポ2011に出展した企業もあり、香港での更なる販売の足がかりにするべく、各社熱心に商談を行いました。香港日本食市場は参入しやすい反面、商品レベルが高いため競争も激しく、ブランドの浸透と商品の定着化を図ることが最も困難且つ重要だと思われます。そんな中、今回の商談では、新たなポテンシャルとなる発見がシティ・スーパー・ジャパン、会員企業の双方にあったようです。香港の店舗に加え、積極的な新規出店が予定されている台湾でも、会員企業の商品が陳列されているのを目にするのが今から楽しみです。

CREATING AWARD–WINNING STAYS AT HONG KONG'S HOTTEST HOTEL

EXCEEDING YOUR EXPECTATIONS

118 Nathan Road Tsimshatsui Kowloon Hong Kong
T +852 2368 1111 F +852 2369 1788
info@themirahotel.com www.themirahotel.com

For enquiries, please contact
Miramar International Hotel Management S.A (Japan Office)
Joanne Qiao at T 03-3932-3928 or joanna.qiao@mihmc.jp

the mira
HONG KONG